
学習ガイダンス

2025年度 入学生



聖マリアンナ医科大学看護専門学校

「学習ガイダンス」は、本校の教育理念・教育目標をはじめ、ディプロマポリシー（当社が定める専門士授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育目標等を達成するために必要な教育課程の編成）、アドミッションポリシー（当社が求める学生像）を示しています。また、当社における単位修得の進度、科目の単位修得試験に関する諸注意が示されています。

他に、単位修得科目に並び当社の特色を反映させた“特別教育活動”のねらいや内容を把握することができます。

「学習ガイダンス」の試験に関する諸注意などを熟読し、その内容に十分留意し、学則に則った学業を修められることを願います。

学 籍 番 号	
氏 名	

学 習 ガ イ ダ ン ス

聖マリアンナ医科大学 看護専門学校

目 次

教育理念・教育目的・教育目標	1
概念枠組み	2
ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー	3
教育目標とディプロマポリシーの関連性	5
教育目標（下位目標：卒業生の特性）	6
試験受験にあたっての注意事項	8
レポート作成にあたっての注意事項	10
特別教育活動のねらい・看護学科学科目及び時間数（進度表）・先修条件	12
履修科目申請	15

教 育 理 念

キリスト教的人類愛と生命の尊厳を基本とし、国際社会に貢献しうる看護実践者を育成する。

キリスト教的人類愛は、分け隔てなく人を愛することを旨とし、生命の尊厳を保つことを基本に置く。その上にたつて看護師としての使命感を自覚し、人種、信条に係りなく、人々が健康で充実した社会生活が送れるよう、また時代の変化に対応できる看護の知恵、知識、技術を修得できるよう育成する。そのために必要な柔軟な感性と広い視野、人を愛する心を自ら育てられるよう支援する。

教 育 目 的

教育理念に基づいて、看護の理論、技術を教授し、看護職としての倫理観を培い、看護の実践者として社会に貢献し得る、豊かな人間性を備えた看護師を育成する。

教 育 目 標

1. 生命に対して畏敬の念を持ち、人間を多様な価値観を持つかけがえのない存在として尊重する態度を養う。
2. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力を養う。
3. 対象に応じた看護を科学的根拠に基づき実践できる能力を養う。
4. 看護の専門職者として役割・責任を自覚し、社会のニーズに対応した行動が取れる能力を養う。
5. チーム医療を推進するための役割機能を果たす能力を養う。
6. 看護を追求し生涯学び続ける姿勢を養う。

概 念 枠 組 み

1. 人 間

- 1) 人間は、生物・心理・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在であり、それらが統合された生活体である。
- 2) 人間は、人格も持つ尊厳ある存在であり、唯一無二である。
- 3) 人間は、生涯成長発達し続けるものである。
- 4) 人間は、環境との相互作用の中で絶えず変化しながら生活している存在である。
- 5) 人間は、基本的欲求の充足に向かって動機づけられる存在である。
- 6) 人間は、社会的・文化的背景の中で固有の感性や価値観を持つ存在である。
- 7) 人間は、社会の中で役割を持つ存在である。

2. 環 境

- 1) 環境は、人間と人間をとりまく全てである。
- 2) 環境は、内的（生体的）環境と外的（外界）環境に大別される。
- 3) 環境と人間は相互に作用しあい、環境は人間の健康に影響を与えるものである。

3. 健 康

- 1) 健康は、心身及び社会的、経済的、生産活動などの統合した状態であり、調和がとれ満足できる状態である。
- 2) 健康は、生きていく上で基本的なものである。
- 3) 健康は、疾病や老いがあっても生活全体として満足が得られる高いレベルの状態である。
- 4) 健康は、流動的であり、連続的であり、個別的なものである。

4. 看 護

- 1) 看護は、あらゆる人々を対象として、疾病の予防、健康の回復、保持、増進、尊厳のある死への援助を行うことである。
- 2) 看護は、個人が本来持っている生命力を引き出し、その生命力の消耗を最小限にし、生活を整えることである。
- 3) 看護は、人間と人間の相互作用のうえで、人間同士が成長することである。
- 4) 看護職は専門職であり、社会の変動に伴う保健医療福祉のニーズに対応するものである。

5. 学 習

- 1) 学習とは、経験を通じてもたらされ、ある目標に向かって生ずる比較的永続性のある行動の変化である。
- 2) 学習は、学習者の内発的動機付けによって自ら学ぶことである。
- 3) 教育は、自己実現に向けての行動やその変容を促進・強化する環境を提供することである。

ディプロマポリシー

キリスト教的人類愛を基盤とし、本校の教育理念および教育目的に則り、以下の力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門士としての称号を授与する。

1. 自己理解と他者理解を深め、人々との良好な人間関係を築くことができる力。
2. 相手の気持ちに配慮し、相手が何を望み、どのような気持ちかを注意深く考えることができる力。
3. 看護実践において正しいことは何か、その人にとっての最善は何かを考え判断していく力。
4. 医療現場における事象についての気づきを基に、その意味を省察する力。
5. 自らの責任のもと、自ら行動し、やり遂げる力。
6. 創造的な発想、多面的な視点を持ち、看護を追求し続ける力。
7. 社会に関心を寄せ、看護職に求められる社会のニーズを捉える力。

カリキュラムポリシー

本校のカリキュラムは、キリスト教的人類愛を基盤とするディプロマポリシーの達成のため、医療の担い手である専門職としての看護師を育成する。また、社会のニーズに従い、看護実践者として活躍できる基礎となる知識・技術・態度を養い、卒業後も看護基礎教育における学びのプロセスを基盤として看護実践者として活躍し、学び続けることを念頭に置きカリキュラムを編成する。

基 礎 分 野：

ここでは、専門基礎分野・専門分野の基礎知識として役立てるとともに、キリスト教的人類愛を基盤とした豊かな人間性を養う。

学習内容は、「科学的思考の基盤」となる情報科学・論理学・生物学や、「人間と生活、社会の理解」のための宗教哲学・文化人類学・人間関係論・生涯発達学・現代家族論などの計 14 科目（14 単位）で構成される。

専門基礎分野：

ここでは、人間理解（身体的・心理的側面）を基盤に、保健・医療・福祉の現場で臨床判断するための基礎知識や、医療倫理・多職種連携や協働の必要性を学び、看護実践者としての幅広い視野を養うことを学習目的とする。

学習内容は、「人体の構造と機能」を理解するための形態機能学（解剖学・生理学）・生化学など、「疾病の成り立ちと回復の促進」を理解するための病気の発生とメカニズム・微生物と病気・疾病治療論・リハビリテーション論など、「健康支援と社会保障制度」を理解するための社会福祉論・現在医療論・予防医学などの計 23 科目（23 単位）で構成される。

専門分野：

ここでは、各看護学の講義・演習・臨地実習での学びを通して臨床判断能力を養い、さらにはチーム医療や多職種連携のなかで看護師が専門性を発揮しながらリーダーシップ・フォロワーシップを発揮する必要性などを学びます。

学科目（講義・演習）は、看護の基礎的理論および技術を学ぶ「基礎看護学」11単位、地域で生活する対象者への支援のあり方を学ぶ「地域・在宅看護論」6単位、さらに様々な年代・状況・健康段階にある人への看護を学ぶ「成人看護学」6単位、「老年看護学」4単位、「小児看護学」4単位、「母性看護学」4単位、「精神看護学」4単位を学ぶ。さらに、専門分野では、ここまで学習した全ての分野の学習内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する能力を養う「看護の統合と実践」も加え、計43単位で構成される。

臨地実習は、基礎看護学実習5単位、老年看護学実習1単位、成人・老年看護学実習6単位、小児看護学実習2単位、母性看護学実習2単位、精神看護学実習2単位、地域・在宅看護論実習2単位、統合実習3単位の計23単位で構成される。

アドミッションポリシー

1. 本校の教育理念・教育目的・教育目標に賛同する人
2. 看護実践に強い関心があり、看護を通じて社会に貢献したい人
3. 人間として尊敬（誠実）と思いやりの心を持っている人
4. 自ら考え行動しようとする、学習意欲の高い人
5. 自分の課題を見つけ、その課題に取り組むことができる人
6. 目標に向かって粘り強く、支援を求めながらチャレンジできる人

教育目標とディプロマポリシーの関連性

「目標の到達度」と「ディプロマポリシーの達成度」の関連の表記： ○ 直接的に関連している △ 間接的に関連している

教育目標 ディプロマポリシー	1. 生命に対して畏敬の念を持ち、人間を 多様な価値観を持つかけがえのない 存在として尊重する態度を養う	2. 健康の保持・促進、疾病の予防、健康の 回復にかかわる実践能力を養う	3. 対象に応じた看護を科学的根拠に基づき 実践できる能力を養う	4. 看護の専門職者として役割・責任を自覚し、 社会のニーズに対応した行動が取れる 能力を養う	5. チーム医療を推進するための役割機能を 果たす能力を養う	6. 看護を追求し生涯学び続ける姿勢を養う
1. 自己理解と他者理解を深め、 人々との良好な人間関係を築く ことができる力	○		○		○	△
2. 相手の気持ちに配慮し、相手が 何を望み、どのような気持ちか を注意深く考えることが できる力	○	△	○	△	△	
3. 自らの責任のもと、自ら行動し、 やり遂げる力		○	○	○	○	○
4. 看護実践において正しいこ とは何か、その人にとっての 最善は何かを考え判断してい く力	○	△	○	○	△	△
5. 医療現場における事象に ついての気づきを基に、 その意味を省察する力	△		○	△		△
6. 創造的な発想、多面的な視点を 持ち、看護を追求し続ける力		△	○	△	△	○

教育目標（下位目標：卒業生の特性）

1. 生命に対して畏敬の念を持ち、人間を多様な価値観を持つかけがえない存在として尊重する態度を養う。

- 1) 生命（生きる、生きている）、生命の連続としての死を深く考え自分の意見をもてる。
- 2) 人間の喜び・悲しみ・苦しみを感じ取り、他を思いやれる。
- 3) 国籍、人種・民族、宗教、信条、年齢、性別及び性的志向、社会的地位、経済的状态、ライフスタイル、健康問題の性質にかかわらず人間を尊重する。

2. 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力を養う。

- 1) 各ライフステージにおける健康の保持増進や疾病の予防における看護の役割が説明できる。
- 2) 日常生活の自立／自律にむけた回復過程に応じた支援を実施する。
- 3) 健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質の維持向上にむけた支援を実施する。
- 4) 急速に健康状態が変化する対象の病態や治療とその影響について理解する。

3. 対象に応じた看護を科学的根拠に基づき実践できる能力を養う。

- 1) 人間の健康状態や生活に深い関心を寄せ、得られた反応をありのまま捉えることができる。
- 2) 対象の反応を看護の基礎的知識を活用しながら分析・解釈し、看護を導き出すことができる。
- 3) 基本的な看護技術を対象の状態に合わせて安全・安楽・自立／自律に留意しながら実施する。
- 4) 対象の反応の意味に気づき、状況を捉えた上で実践した看護を省察できる。

4. 看護の専門職者として役割・責任を自覚し、社会のニーズに対応した行動が取れる能力を養う。

- 1) 専門職者として自己の看護観を明確にし、強い意志を持って行動する。
- 2) 看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守する。
- 3) 対象の選択権・自己決定権を尊重し、擁護者として行動する。
- 4) 社会に求められる専門職者としての行動規範を身につける。

5. チーム医療を推進するための役割機能を果たす能力を養う。

- 1) 看護チーム内における看護師の役割と責任を知る。
- 2) 他職種の特性と役割を理解し、相互に連携・協働できる能力を養う。
- 3) チーム医療を実践していくために、チームの状況の変化に柔軟に対応できる能力を養う。
- 4) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と責任を知る。
- 5) リスクマネジメントを含む医療安全の基本的な考え方や看護師の役割について知る。

6. 看護を追求し生涯学び続ける姿勢を養う。

- 1) 国内外の情勢に関心に向け、社会における看護の役割を認識できる。
- 2) 物事の表面を見るだけでなく、その背景・根底にあるものを追求することで本質を捉えることができる。
- 3) 自分の気持ちや行動をリフレクションする習慣を身につける。
- 4) 自己の能力の限界を認識でき、自ら他者に助言を求め、謙虚に受け入れられる。
- 5) 質の高い看護を実践するために、自ら継続的に学習する習慣を身につける。
- 6) 自己の将来を見据え、進むべき道を見出し、自らの責任で歩いていける。

試験にあたっての注意事項

- ＊ 試験受験にあたっては、成績細則を確認の上、試験に臨むこと。また、年間の試験日程をよく確認し、計画的に学習すること。

1. 試験前日までの準備

- 1) 試験会場は、試験前日の授業終了後に各人が机の私物を片付け、掃除当番が掃除する。
- 2) 試験座席表に合わせて、机・椅子を配置する。机の落書きも消す。
- 3) 準備終了後は、学習環境整備係が試験会場の最終点検を行う。

2. 試験開始前の準備

- 1) 試験開始 5 分前より試験問題用紙・解答用紙の配布を行う。それまでに以下の準備を整えて着席しておくこと。
 - (1) 試験座席表に従い着席する。
 - (2) 机の中は空にする。
 - (3) 机の上の消しゴムは無地のものでカバーをはずす。
鉛筆、シャープペンシル及びシャープペンシル芯のケースは無地のもの（キャラクター等の印字のないもの）とする。
 - (4) 電卓の持ち込みの許可がある場合は文字やキャラクターの印字のないものを使用する。
 - (5) 指示された筆記用具以外の物（ティッシュ、ペーパー等）を机の上に置く場合は試験監督へ申し出ること。
 - (6) 試験中は、内容に関わらず机や身体等にメモ書きをしないこと。
 - (7) テキスト、ノート、筆箱、携帯電話・通信又はメモ等の機能がある時計（スマートウォッチ）等は鞆の中に確実に収納し、鞆の中が見えないようにする。また、携帯電話は電源をオフにするかマナーモードに設定する。
 - (8) 鞆は椅子の下に収納する。膝掛け、コートなどを膝の上に置かない。
 - (9) コートや膝掛け等は椅子の背に掛けたり、膝の上に置かない。
- 2) 万が一、試験に遅刻および欠席しなければならない時は、事前に学校へ連絡を入れる。

3. 試験中の注意事項

- 1) 試験会場においては試験監督の指示に従うこと。
- 2) 試験中は学生証のみを机の上に置くこと。万が一、学生証を忘れた場合は、カリキュラム担当教員へ報告した後、臨時学生証の発行を受け、試験監督へ試験開始前（まとめの時間がある場合はその前）に申し出る。
- 3) 問題・解答用紙の配布、回収時の私語および席を立つ行為は厳禁とする。
- 4) 科目名、試験時間、問題・解答用紙の枚数は、板書を確認し、その指示に従うこと。
- 5) 試験監督の指示があるまでは、問題・解答用紙に触れないこと。
- 6) 「終了」の指示に従い、速やかに筆記用具を置くこと。
- 7) 試験中に視線をあちこちに向けないこと。
- 8) 物を落とした場合、質問がある場合、体調が悪い場合などは挙手をし、試験監督へ申し出ること。
- 9) 試験終了時は試験監督の指示に従って、問題・解答用紙を配置すること。
- 10) 試験中に不正行為をした者は、教室からの退場を命じられ、試験は無効となる。
- 11) 試験における不正行為とは次に例示する行為をいう。
 - (1) 他人の代わりに受験すること、あるいは他人に自分の身代わりとして受験させること。
 - (2) 不正使用の目的で作成した文書、携帯電話などを使用すること。
 - (3) 使用が許可されていない参考書・ノート等を使用すること。
 - (4) 机や身体等に不正な書き込みをすること。
 - (5) 他人の答案用紙と交換すること。
 - (6) 他人の答案用紙に記述したり、また答案用紙の記述をさせること。
 - (7) 私語・動作等によって不正な連絡をすること。
- 12) 試験中に疑わしい行為をした者、「試験にあたっての注意事項」を遵守できなかった者も相当の対処がなされる。
- 13) 試験終了後、問題・解答用紙が全て回収されるまで教室の退室は認めない。
- 14) 終了試験・追試験・再試験の問題用紙・解答用紙（レポートの場合は表紙）のクラス・学籍番号・氏名、マークシート解答用紙の場合は学籍番号の塗りつぶしの記載ミス・記載漏れがあった場合は採点除外となる。

4. 試験成績の返却について

- 1) 各学年で修得する単位は、1年次 44 単位、2年次 41 単位、3年次 18 単位であり、3年次までの修得単位数は合計 103 単位である。
- 2) 成績は、紙面成績表と WEB 上で開示する。開示方法、開示時期、開示科目についてはその都度伝達する。WEB 上で開示する場合の開示時期は 1 週間とする。

レポート作成にあたっての注意事項

1. レポート作成上の注意事項

- 1) レポート規定で用紙のサイズの指示がない場合は次の通りとする。
 - ・レポート用紙の場合 : A4 サイズ・横書き場合以下のとおりとする。
 - ・原稿用紙の場合 : A4 サイズ・横書き・400 字詰め
- 2) レポートの表紙は、指定の書式を使用する。書式はポータルサイトよりダウンロードすること。
誤字・脱字・書き損じ等のないように留意すること。
- 3) 手書きの場合は黒のボールペンを用いる。
(鉛筆や消せるボールペンの使用は禁ずる。その他は講師の指示に従うこと。)
- 4) レポートは必ず上部 2 か所を芯のあるホチキスで綴じること。
(担当講師の指示がある場合は、それに従う。)
- 5) レポート規定に枚数の指示がある場合は、表紙は枚数に含まれない。
- 6) 提出場所、提出日時を厳守すること。
- 7) 生成 AI により作成された文章をそのまま使用し、作成されたレポートは認めない。
- 8) 他者が作成した文章をそのまま使用し、作成されたレポートは認めない。

2. 終了試験レポートについて

- 1) 終了試験レポートの課題・レポート規定・提出期限については、ポータルサイトに公示する。
- 2) 終了試験レポートの作成にあたっては、前述の「1. レポート作成上の注意事項」を参照のこと。
- 3) 終了試験レポートは公示で指示された期間内に、事務室前のレポート提出用ボックス内の指示された場所へ提出する。提出は 1 度のみとする。
- 4) 次の条件を満たさない終了試験レポートは受け付けない。
 - (1) 提出期間内に提出されなかったもの。
 - (2) 学籍番号、氏名が記載されていないもの。
- 5) レポートの提出は、作成者本人が行う。
- 6) 終了試験レポートを指定の提出ボックス以外に間違えて入れた場合、または、2 部入れた場合カリキュラム担当教員へ申し出ること。
- 7) 終了試験レポートは原則返却しない。

《レポート表紙》

*ホチキスで留める



科目名	
テーマある場合は 記載	

学校名	聖マリアンナ医科大学看護専門学校
学籍番号	
氏 名	

★ 次の条件を満たさない終了試験レポートは受け付けない。

- (1) 提出期間内に提出されなかったもの
- (2) 学籍番号、氏名が記載されていないもの

聖マリアンナ医科大学看護専門学校

49回生 特別教育活動

【特別教育活動のねらい】

知識・技術・豊かな人間性を兼ね備えた看護師になるために必要な看護活動を体験する。

特別教育活動（全学年）	時 間	ね ら い
始 業 式	2 時間	学年のはじめにあたり、学習への関心・意欲を新たにします。
入 学 式	4 時間	新入生は聖マリアンナ医科大学看護専門学校の学生として自覚を持つ。 在校生は、新入生を迎えることを認識し、共に学ぶ姿勢を持つ。
健 康 診 断	8 時間	健康診断を受け、学生自身が健康状態を知り、健康の保持増進を図る。
学 外 ゼ ミ ナ ー ル	8 時間	集団の中で協調性と役割意識を高める。 方法：学生が主体となり、企画・準備・実施する。
防 災 教 育 防 災 訓 練	4 時間	防災に関心を持ち、対処方法を知り、安全に対する意識を深め、事故防止に努める。 方法：講義（施設整備課、または消防署職員）
継 灯 式	4 時間	看護に対する志をあらたにし、看護学生として自覚と責任を持つ。
ク リ ス マ ス の 集 い	2 時間	キリストの誕生を祝い、世の平和と人々の幸福を祈る。 方法：神父による集い、各学年の代表が共同祈願を行う。
キャンドルサービス	4 時間	クリスマスや年末を、病院や施設で過ごす人々の心を癒すため、光と平和と愛を分かち合う。 場所：大学病院、西部病院、東横病院、多摩病院、生田病院など
特 別 講 演	4 時間	多方面において活躍されている方を講師としてお招きし、その活動内容を聞くことにより見識を広め、専門職業人としての自覚を高める。
卒 業 式	4 時間	本校卒業生としての誇りを持ち、専門職業人としての責任を自覚する。 在校生は卒業生の門出を祝い、本校の理念を引継ぎ、発展させていくことを自覚する。
終 業 式	2 時間	1 年間の振り返りを行い、新学年への心構えを持つ。

特別教育活動（学年）	時 間	ね ら い
創 立 者 追 悼 ミ サ および学内追悼ミサ (1 年生)	2 時間	創立者および本校・医大・病院の教職員の業績に感謝し、その意図を尊重する共に聖マリアンナ医科大学看護専門学校の学生としての意識を高める。
解剖ご遺体慰霊法要ミサ (2 年生)	2 時間	医学・看護学発展のためにささげられた人々の霊に感謝し、平安な眠りにつかれるよう心から祈る。
関 連 病 院 見 学 (1 年生)	12時間	関連病院の見学を通して、聖マリアンナ医科大学の一員としての自覚を高める。
特別教育活動 接遇 (2 年生)	2 時間	社会人・専門職業人としての接遇の意義とその実際について学ぶ。 内容：挨拶の仕方、言葉遣い、身だしなみが相手に与える影響、 時・場所・目的に合わせた身だしなみ。
特別教育活動 音楽 (1 年生)	4 時間	看護師として感性を養い、参加するミサ等の楽曲について学ぶ。

科 目		学 則		学 年 別 配 当 単 位 ・ 時 間					
		単位	時間数	一年次		二年次		三年次	
				単位	時間	単位	時間	単位	時間
基 礎 分 野	宗教哲学	1	30	1	30				
	音楽	1	15	1	15				
	人間関係論	1	30	1	30				
	論理学	1	15	1	15				
	生物学	1	15	1	15				
	社会学	1	15	1	15				
	文化人類学	1	15			1	15		
	英語	1	30	1	30				
	看護と人間工学	1	15	1	15				
	生涯発達学	1	15	1	15				
	現代家族論	1	15	1	15				
	生涯教育学	1	15			1	15		
	情報科学	1	30			1	30		
	異文化コミュニケーション	1	30			1	30		
小 計①		14	285	10	195	4	90		
専 門 基 礎 分 野	形態機能学Ⅰ－①	1	30	1	30				
	形態機能学Ⅰ－②	1	30	1	30				
	形態機能学Ⅱ－①	1	30	1	30				
	形態機能学Ⅱ－②	1	30	1	30				
	看護形態機能学	1	15	1	15				
	生化学	1	30	1	30				
	栄養学	1	15	1	15				
	病気の発生とメカニズム	1	30	1	30				
	微生物と病気	1	30	1	30				
	薬理作用と健康	1	30	1	30				
	疾病診断総論	1	15	1	15				
	疾病治療総論	1	15	1	15				
	疾病治療論Ⅰ	1	30	1	30				
	疾病治療論Ⅱ	1	15	1	15				
	疾病治療論Ⅲ	1	15			1	15		
	疾病治療論Ⅳ	1	15			1	15		
	疾病治療論Ⅴ	1	15			1	15		
	リハビリテーション論	1	15			1	15		
	現代医療論	1	15	1	15				
	医療関係法規	1	15			1	15		
	社会福祉論	1	30			1	30		
	臨床心理学	1	30			1	30		
	予防医学	1	30			1	30		
小 計②		23	525	15	360	8	165		
専 門 分 野	看護学概論Ⅰ－看護の概念と変遷－	1	30	1	30				
	看護学概論Ⅱ－看護研究・看護教育制度・看護倫理－	1	30			1	30		
	基礎看護学Ⅰ－看護の基盤となる基礎的倫理と看護の展開方法－	1	30	1	30				
	基礎看護学Ⅱ－看護の展開方法の実際－	1	15	1	15				
	基礎看護学Ⅲ－看護実践に共通する基礎的技術①－	1	30	1	30				
	基礎看護学Ⅳ－看護実践に共通する基礎的技術②－	1	30	1	30				
	基礎看護学Ⅴ－看護実践における基礎的技術①－	1	30	1	30				
	基礎看護学Ⅵ－看護実践における基礎的技術②－	1	30	1	30				
	基礎看護学Ⅶ－看護実践における基礎的技術③－	1	30	1	30				
	基礎看護学Ⅷ－診療に伴う基礎的技術－	1	30			1	30		
	基礎看護学Ⅸ－看護実践における基礎的技術の統合（臨床判断能力）－	1	15			1	15		
	成人看護学Ⅰ－成人の発達と健康－	1	15	1	15				
	成人看護学Ⅱ－慢性期看護論－	1	30			1	30		
	成人看護学Ⅲ－回復期看護論－	1	30			1	30		
	成人看護学Ⅳ－終末期看護論－	1	15			1	15		
	成人看護学Ⅴ－急性期看護論－	1	30			1	30		
	成人看護学Ⅵ－成人期の看護過程演習－	1	30			1	30		
	老年看護学Ⅰ－高齢者の健康と生活－	1	30	1	30				
	老年看護学Ⅱ－高齢者と社会－	1	15	1	15				
	老年看護学Ⅲ－高齢者の健康障害と自立を促す看護－	1	30			1	30		
	老年看護学Ⅳ－高齢者の特徴を捉えた援助技術・看護過程－	1	30			1	30		
	小児看護学Ⅰ－小児看護学概論－	1	30	1	30				
	小児看護学Ⅱ－小児保健論－	1	15			1	15		
	小児看護学Ⅲ－小児の基本的看護技術－	1	30			1	30		
	小児看護学Ⅳ－こころの病と生活支援－	1	30			1	30		
	母性看護学Ⅰ－周産期看護学：妊産婦と胎児の健康と母子保健－	1	30	1	30				
	母性看護学Ⅱ－周産期看護学：褥婦と新生児の健康と母子保健－	1	30			1	30		
	母性看護学Ⅲ－周産期に必要な看護援助と保健指導－	1	15			1	15		
	母性看護学Ⅳ－母性看護学の基盤 性と母子保健－	1	30			1	30		
	精神看護学Ⅰ－生活とこころの変化－	1	15	1	15				
	精神看護学Ⅱ－こころの健康維持増進の援助－	1	30			1	30		
	精神看護学Ⅲ－精神に障害にある人の治療の援助－	1	30			1	30		
	精神看護学Ⅳ－こころの病と生活支援－	1	30			1	30		
	地域・在宅看護論Ⅰ－地域と生活者－	1	30	1	30				
	地域・在宅看護論Ⅱ－地域・在宅看護における支援と家族－	1	15			1	15		
	地域・在宅看護論Ⅲ－地域での多職種連携と協働－	1	30			1	30		
	地域・在宅看護論Ⅳ－生活場における看護実践の基本－	1	15			1	15		
	地域・在宅看護論Ⅴ－生活場における看護実践－	1	30			1	30		
	地域・在宅看護論Ⅵ－在宅における看護過程－	1	30					1	30
	看護の統合と実践Ⅰ－上級市民救命士講習・災害看護・国際保健活動論－	1	30			1	30		
	看護の統合と実践Ⅱ－看護マネジメント・チーム医療と多職種連携－	1	30					1	30
	看護の統合と実践Ⅲ－医療安全・医療と法・医療倫理－	1	30					1	30
	看護の統合と実践Ⅳ－技術の統合・知識の統合－	1	30					1	30
小 計③		43	1140	15	390	24	630	4	120
臨 地 実 習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45				
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	2	90				
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90			2	90		
	地域包括看護実習	1	45			1	45		
	成人・老年看護学実習Ⅰ	1	45	1	45				
	成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90			2	90		
	成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90					2	90
	成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90					2	90
	小児看護学実習	2	90					2	90
	母性看護学実習	2	90					2	90
	精神看護学実習	2	90					2	90
	地域・在宅看護論実習	2	90					2	90
小 計④		23	1035	4	180	5	225	14	630
総合計①+②+③+④		103	2,985	44	1,125	41	1,110	18	750

先 修 条 件

2024年4月適用

履修学年	臨地実習名／科目	臨 地 実 習			科 目		
		先行して履修すべき実習	履修済み	単位習得済み	先行して履修すべき科目	履修済み	単位習得済み
1 年生	基礎看護学実習Ⅰ						
	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ		○	看護学概論Ⅰ	○	
					基礎看護学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ	○	
	成人老年看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰ		○	老年看護学Ⅰ・Ⅱ	○	
2 年生	基礎看護学実習Ⅲ	基礎看護学実習Ⅱ		○			
		成人老年看護学実習Ⅰ		○	基礎看護学Ⅰ・Ⅱ		○
					形態機能学Ⅰ-①②、形態機能学Ⅱ-①②、生化学、栄養学		○
	地域包括看護実習	基礎看護学実習Ⅲ		○	地域・在宅看護論Ⅰ	○	
	成人老年看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅲ		○	成人看護学Ⅰ		○
					基礎看護学Ⅷ	○	
					成人看護学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	○	
3 年生	地域・在宅看護論実習	地域包括看護実習		○	2年次までの全科目		○
		成人老年看護学実習Ⅱ		○	地域・在宅看護論Ⅵ		○
	成人老年看護学実習Ⅲ	地域包括看護実習		○	2年次までの全科目		○
		成人老年看護学実習Ⅱ		○			
	成人老年看護学実習Ⅳ	地域包括看護実習		○	2年次までの全科目		○
		成人老年看護学実習Ⅱ		○			
	小児看護学実習	地域包括看護実習		○	2年次までの全科目		○
		成人老年看護学実習Ⅱ		○			
	母性看護学実習	地域包括看護実習		○	2年次までの全科目		○
		成人老年看護学実習Ⅱ		○			
	精神看護学実習	地域包括看護実習		○	2年次までの全科目		○
		成人老年看護学実習Ⅱ		○			
	統合実習	地域・在宅看護論実習		○	看護の統合と実践Ⅱ・Ⅲ	○	
		成人老年看護学実習Ⅲ		○			
		成人老年看護学実習Ⅳ		○			
		小児看護学実習		○			
		母性看護学実習		○			
		精神看護学実習		○			
	看護の統合と実践Ⅳ	地域・在宅看護論実習		○	看護の統合と実践Ⅱ・Ⅲ		○
		成人老年看護学実習Ⅲ		○			
		成人老年看護学実習Ⅳ		○			
		小児看護学実習		○			
		母性看護学実習		○			
		精神看護学実習		○			
		統合実習		○			

20()年度 履修科目申請

49 回生

20 () 年入学・【 】 回生・学籍番号 () ・氏名 【 】

1 年次科目				
	科目名	単位	未修得	登録
基礎分野	宗教哲学	1		
	音楽	1		
	人間関係論	1		
	論理学	1		
	生物学	1		
	社会学	1		
	英語	1		
	看護と人間工学	1		
	生涯発達学	1		
	現代家族論	1		
専門基礎分野	形態機能学Ⅰ－①	1		
	形態機能学Ⅰ－②	1		
	形態機能学Ⅱ－①	1		
	形態機能学Ⅱ－②	1		
	看護形態機能学	1		
	生化学	1		
	栄養学	1		
	病気の発生とメカニズム	1		
	微生物と病気	1		
	薬理作用と健康	1		
	疾病診断総論	1		
	疾病治療総論	1		
	疾病治療論Ⅰ	1		
	疾病治療論Ⅱ	1		
	現代医療論	1		
専門分野	看護学概論Ⅰ	1		
	基礎看護学Ⅰ	1		
	基礎看護学Ⅱ	1		
	基礎看護学Ⅲ	1		
	基礎看護学Ⅳ	1		
	基礎看護学Ⅴ	1		
	基礎看護学Ⅵ	1		
	基礎看護学Ⅶ	1		
	地域・在宅看護論Ⅰ	1		
	成人看護学Ⅰ	1		
	老年看護学Ⅰ	1		
	老年看護学Ⅱ	1		
	小児看護学Ⅰ	1		
	母性看護学Ⅰ	1		
	精神看護学Ⅰ	1		
実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2		
	成人老年看護学実習Ⅰ	1		

【 履修科目申請の記入方法 】

- ①前年度の成績表から未修得科目がないかを確認する。
- ②未修得科目がある者はその科目の未修得欄に●を記す。
- ③今年度履修予定の科目の登録欄に○を記す。
- ④履修科目の登録は予定される年次を上回る事はできない。
- ⑤すでに単位認定されているが、再履修が必要とされた科目・希望する科目の登録欄に※を記す。

2 年次科目				
	科目名	単位	未修得	登録
基礎分野	文化人類学	1		
	生涯教育学	1		
	情報科学	1		
	異文化コミュニケーション	1		
専門基礎分野	疾病治療論Ⅲ	1		
	疾病治療論Ⅳ	1		
	疾病治療論Ⅴ	1		
	リハビリテーション論	1		
	医療関係法規	1		
	社会福祉論	1		
	臨床心理学	1		
	予防医学	1		
専門分野	看護学概論Ⅱ	1		
	基礎看護学Ⅷ	1		
	基礎看護学Ⅸ	1		
	地域・在宅看護論Ⅱ	1		
	地域・在宅看護論Ⅲ	1		
	地域・在宅看護論Ⅳ	1		
	地域・在宅看護論Ⅴ	1		
	成人看護学Ⅱ	1		
	成人看護学Ⅲ	1		
	成人看護学Ⅳ	1		
	成人看護学Ⅴ	1		
	成人看護学Ⅵ	1		
	老年看護学Ⅲ	1		
	老年看護学Ⅳ	1		
	小児看護学Ⅱ	1		
	小児看護学Ⅲ	1		
	小児看護学Ⅳ	1		
	母性看護学Ⅱ	1		
	母性看護学Ⅲ	1		
	母性看護学Ⅳ	1		
実習	精神看護学Ⅱ	1		
	精神看護学Ⅲ	1		
	精神看護学Ⅳ	1		
	看護の統合と実践Ⅰ	1		
	基礎看護学実習Ⅲ	2		
	地域包括看護実習	1		
	成人老年看護学実習Ⅱ	2		

3 年次科目				
	科目名	単位	未修得	登録
専門分野	地域・在宅看護論Ⅵ	1		
	看護の統合と実践Ⅱ	1		
	看護の統合と実践Ⅲ	1		
	看護の統合と実践Ⅳ	1		
実習	地域・在宅看護論実習	2		
	成人老年看護学実習Ⅲ	2		
	成人老年看護学実習Ⅳ	2		
	小児看護学実習	2		
	母性看護学実習	2		
	精神看護学実習	2		
	統合実習	2		

聖マリアンナ医科大学看護専門学校

特別教育活動 履修申請用紙

科 目	学 年	講 義 時 間 数	受 講 者 (選択者含む)	時 期	在籍1年	在籍2年	在籍3年	年	年	年
					年月日	年月日	年月日			
<< 全 学 年 対 象 者 >>										
始業式	全	2	必須	4月	●	●	●	●	●	●
入学式	全	4	必須	4月	●	●	●	●	●	●
健康診断	全	8	必須	4月	●	●	●	●	●	●
防災教育・防災訓練	全	4	必須	4月	●	●	●	×	×	×
学外ゼミオリエンテーション	全	2	学年1回	4月				×	×	×
学外ゼミナール	全	8	学年1回	4月				×	×	×
継灯式	全	4	必須	10月	●	●	●	●	●	●
クリスマスの集い	全	2	学年1回	12月				希望制		
キャンドルサービス	全	4	学年1回	12月				希望制		
特別講演	全	4	学年1回	5月				希望制		
その他 始業・終業										
卒業式	全	4	必須	3月	●	●	●	●	●	●
終業式	1	2	必須	3月	●	●	●	●	●	●
<< 1 年 >> ※各学年 出席は一度										
新入生オリエンテーション	1	20		4月				希望制		
創立者追悼ミサ	1	2		10月				希望制		
継灯式オリエンテーション・リハーサル	1	6		10月				希望制		
特別教育活動(音楽)1年生	1	4		9月～12月				希望制		
関連病院見学	1	12		2～3月頃				希望制		
<< 2 年 >> ※各学年 出席は一度										
接遇	2	2		10月						
解剖ご遺体追悼ミサ並び創立者等学内追悼ミサ	2	4		10月				希望制		
<< 3年 >>										
卒業式リハーサル	3	4		3月(卒業式前日)						

その他 学生会関係行事										
新入生歓迎会	全	0		4月予定						
学校祭	全	12		5月予定						
国家試験合格祈願祭	3	2		2月予定						

*該当者は、申請時に諸注意に関するオリエンテーションを受けること。